

先日はてがたんにご参加いただき、ありがとうございました。てがたんの観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。次回6月のてがたんは、6月11日(土)で、「探してみよう!コケの世界」がテーマです。ぜひご参加ください。

\*市民スタッフの方へ 次回のてがたん下見は、6月4日(土)の13:30からです。よろしく願いいたします。

## 5月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→手賀沼ふれあいライン歩道→藤棚→市民農園→手賀沼遊歩道→釣り堀入り口
- 観察日時と天気：2016年5月14日(土) 10:00～12:00 晴れ
- 参加人数：26人(大人22人、こども4人)
- 市民スタッフ：9人 (蒲田知子、染谷迪夫、伊東茂子、岡廣志、木村稔、須貝基康、弘實さと子、古川克彌、湯瀬一栄)
- 鳥博職員：2人 (斉藤安行・美濃亜理彩)

## 観察した生き物の記録

### 【鳥類】

カモ科：コブハクチョウ、カルガモ、ノカイツブリ科：カイツブリ/ハト科：ドバト、キジバト/ウ科：カワウ/クイナ科：オオバン/ハヤブサ科：チョウゲンボウ/モズ科：モズ/カラス科：ハシブトガラス、ハシボソガラス/シジュウカラ科：シジュウカラ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/ウグイス科：ウグイス(声のみ)/ムクドリ科：ムクドリ/スズメ科：スズメ/セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ/アトリ科：カワラヒワ/ホオジロ科：ホオジロ

### 【は虫類】

ニホンカナヘビ

### 【両生類】

ウシガエル(声のみ)、ニホンアマガエル、トウキョウダルマガエル(声のみ)

### 【昆虫】

バッタ目：ヒシバッタ、ヒメギス(幼虫)/カメムシ目：ヨコツナサシガメ、ノコウチュウ目：ナナホシテントウ、ルリハムシ、ヒメルリハムシ/チョウ目：モンシロチョウ、ベニシジミ、ヤマトシジミ、ルリシジミ、アオスジアゲハ、アゲハ、ナガサキアゲハ、アカボシゴマダラ/トンボ目：ウチワヤンマ

### 【その他節足動物】

ゴミグモの仲間

### 【草の花】

キク科：セイヨウタンポポ、ノゲシ、オニノゲシ、ブタナ、ハルジオン、オオジシバリ、ノボロギク、ニガナ、オニタビラコ、ヤブタビラコ、チチコグサ、ウラジロチチコグサ、ハハコグサ、キツネアザミ、コセンダングサ/アブラナ科：ナズナ、マメグンバイナズナ/ナス科：イヌホオズキ/セリ科：ヤブジラミ/フウロソウ科：アメリカフウロ/オオバコ科：ツボミ、オオバコ、オオイヌノフグリ、タチイヌノフグリ、カワヂシャ/マメ科：カラスノエンドウ、シロツメクサ、アカツメクサ、コメツブツメクサ、ゲンゲ/アゼナ科：アゼナ/スイカズラ科：スイカズラ/ハエドクソウ科：トキワハゼ/バラ科：ヘビイチゴ、オヘビイチゴ/イネ科：イヌムギ、ネズミムギ、コバンソウ、ヒメコバンソウ/ナデシコ科：コハコベ、ノミノツヅリ、ツメクサ/ヒルガオ科：コヒルガオ/イグサ科：スズメノヤリ/ヒガンバナ科：ノビル/ムラサキ科：キュウリグサ/ハマウツボ科：ヤセウツボ/アヤメ科：ニワゼキショウ、オオニワゼキショウ、キショウブ/ケシ科：ナガミヒナゲシ/キンポウゲ科：ケキツネノボタン/タデ科：ギシギシ、エゾノギシギシ、ナガバギシギシ/カタバミ科：カタバミ、イモカタバミ、ムラサキカタバミ、アカカタバミ、オッタチカタバミ/アカバナ科：アカバナユウゲショウ/アカネ科：ヤエムグラ

# 観察した生き物の記録



今回のてがたんのテーマは「渡りと繁殖」でした。手賀沼周辺では春に渡来する、ツバメやオオヨシキリといった夏鳥の繁殖行動を観察することができました。また、花や実を付けている植物を見つけながら歩きました。



今月の案内人 蒲田知子さん、染谷迪夫さん



①写真で前月と比べながらコブシを観察。



②上空を移動していたチョウゲンボウ。



③畑で歩き回っていたコチドリ。



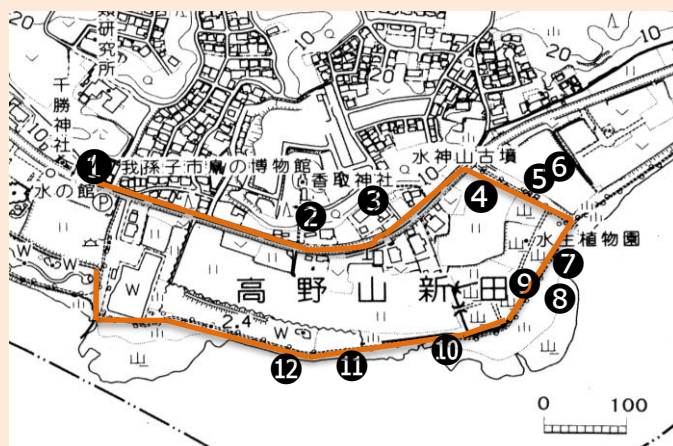
④細長い葉が5枚のオヘビイチゴ。



⑤丸い葉が3枚のヘビイチゴ。



⑥民家や屋外の公衆トイレの軒に巣をつくって子育ての準備をしているツバメ。



歩いたルートと観察した生き物



⑦ニワゼキショウ(右)よりオオニワゼキショウ(左)の果実の方が大きい。



⑧アメリカ原産のアカバナユウゲショウ。



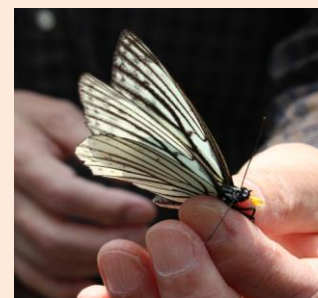
⑨綿毛の付いたヤナギの種が風を受けて舞っていました。



⑩ベニカタバミも大きな花が咲いていました。



⑪大きな声でさえぎっていたオオヨシキリ。



⑫アカボシゴマダラの春型。口吻は橙色。

## 今月の鳥 ツバメ (スズメ目ツバメ科)

春の終わりになると田んぼでツバメが泥を集めている姿を目にします。巣材として利用するために泥を運んでいるのです。唾液と混ぜて軒先などの壁につけて巣を作りやすいか確かめます。気に入った場所を見つけたら巣作りを開始します。抱卵は雌雄交代で行い、ヒナがふ化すると入れ替わるように餌を運ぶようになります。

手賀沼周辺では3月中旬に渡来し、子育ては8月まで続きます。巣立ったヒナはヨシ原で集団になってねぐらをとりながら渡る準備をします。そして9月から10月にかけてインドネシアやフィリピンなど、東南アジアへ渡り、3月に再び日本に向けて北上するまで越冬するのです。



巣の中で親鳥の帰りを待つ雛。嘴の縁が薄い黄色をしている。

てがたんにご参加ありがとうございました。次回もお待ちしております。